

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第80期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 菱電商事株式会社

【英訳名】 Ryoden Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役 正 垣 信 雄

【本店の所在の場所】 東京都豊島区東池袋三丁目15番15号

【電話番号】 03(5396)6111

【事務連絡者氏名】 総務部長 宇 野 悟
経理部副部長兼経理課長 柴 田 恭 宏

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区東池袋三丁目15番15号

【電話番号】 03(5396)6111

【事務連絡者氏名】 総務部長 宇 野 悟
経理部副部長兼経理課長 柴 田 恭 宏

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
菱電商事株式会社関西支社
(大阪市北区堂島二丁目2番2号)
菱電商事株式会社名古屋支社
(名古屋市中区錦二丁目4番3号)
菱電商事株式会社静岡支社
(静岡市駿河区馬淵三丁目6番30号)
菱電商事株式会社北関東支社
(群馬県前橋市古市町484番2号)
(注) 上記の静岡支社及び北関東支社は法定の縦覧場所ではありませんが、
投資者の便宜のため縦覧に供しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第79期 第2四半期 連結累計期間	第80期 第2四半期 連結累計期間	第79期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	117,939	115,233	240,312
経常利益 (百万円)	2,340	2,845	5,648
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,610	1,938	3,731
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,542	1,804	2,784
純資産額 (百万円)	65,081	66,962	65,716
総資産額 (百万円)	131,641	125,212	132,729
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	74.25	89.28	171.98
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	73.97	88.86	171.34
自己資本比率 (%)	49.35	53.37	49.42
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,799	3,667	4,479
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	255	545	686
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	44	1,358	563
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	18,398	18,741	17,107

回次	第79期 第2四半期 連結会計期間	第80期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	49.39	56.37

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国が底堅い成長を続ける中、米中貿易摩擦による中国経済の減速は顕著に表れており、世界経済全体にも影響が広がる可能性をも秘めています。加えて英国のEU離脱による混迷や中東などの地政学リスクにより、先行き不透明感を強めています。

国内経済においては、堅調な企業収益を背景に、設備投資の増加や雇用の改善により、緩やかな回復が続いていましたが、米中貿易摩擦の影響は輸出の低迷や設備投資の鈍化など国内景気の減速が懸念される状況にあります。

当社グループの取引に関する業界は、建設関連などの設備需要は好調に推移したものの半導体製造装置や工作機械などのFA関連の低調が続き、また、自動車関連ではADAS（先進運転支援システム）関連が堅調でしたが、自動車関連全体では軟調に推移しました。

一方、スマートアグリ事業（植物工場）が本格的に立ち上がり、大きく伸長しました。

このような状況下、当社グループは、事業環境の変化に適應した顧客価値創造型ビジネスモデルの実践を加速させ、収益性の向上を図るビジョンのもと、既存の中核事業の高付加価値化、成長事業のビジネスモデル確立及び次世代新規ビジネスの創出を目指し、今期の事業活動を進めています。

その結果、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

（財政状態）

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末比75億16百万円減少し、1,252億12百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末比87億62百万円減少し、582億50百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末比12億46百万円増加し、669億62百万円となりました。

（経営成績）

当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,152億33百万円（前年同期比2.3%減）、営業利益27億83百万円（前年同期比17.7%増）、経常利益28億45百万円（前年同期比21.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益19億38百万円（前年同期比20.3%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

FAシステム

[当第2四半期連結売上高210億27百万円（前年同期比6.9%減）、営業利益5億94百万円（前年同期比34.9%減）]

国内建設関連の受配電設備向けは好調でしたが、米中貿易摩擦、スマホ・半導体不況の影響を受け、半導体・液晶関連製造装置、実装機並びに工作機械向けが低調に推移、また自動車関連の設備投資案件が鈍化し、減収となりました。

また営業利益は、売上総利益の減少により大幅な減益となりました。

冷熱システム

[当第2四半期連結売上高164億31百万円（前年同期比23.1%増）、営業利益8億72百万円（前年同期比75.6%増）]

大都市圏をはじめとした再開発案件の進展により設備業者向けが好調を継続、冷蔵・冷凍の低温分野並びに公立小中学校向け設備案件も好調に推移し、大幅な増収となりました。

また営業利益は、売上総利益の増加により大幅な増益となりました。

ICT施設システム

[当第2四半期連結売上高52億38百万円(前年同期比67.3%増)、

営業利益2億89百万円(前年同四半期は営業損失68百万円)]

情報通信分野及びメディカル分野のICTネットワーク関連機器が好調に推移しました。ビルシステム分野の大都市圏を中心とした好況な建設市場によりビル設備関連機器も好調に推移し、さらにスマートアグリ分野での大型植物工場案件の計上により大幅な増収となりました。

また営業利益は、スマートアグリ分野、情報通信分野及びメディカル分野が貢献し、大幅な増益となりました。

エレクトロニクス

[当第2四半期連結売上高725億36百万円(前年同期比8.0%減)、営業利益10億97百万円(前年同期比0.2%増)]

国内では、自動車関連の国内向け生産は横ばいで欧米向け生産が軟調、ADAS(先進運転支援システム)関連は堅調に推移いたしました。またエアコンなどの空調機器は前半好調でしたが、産業機器関連では主に中国向け工作機械、半導体製造装置などのFA関連が低調となり、減収となりました。

海外子会社では、中国地域においてエアコン向け販売が好調に推移しましたが、産業機器関連が低調となり減収となりました。

また営業利益は、売上総利益率の改善と販売費及び一般管理費の削減により前期並みとなりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループは、経営成績の向上と財政状態の安定を図り、資金需要に応じた一定の手許流動性を維持することを目的に、健全かつ効率的な財務活動を行っております。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末比16億33百万円増加し、187億41百万円の残高となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動により得られた資金は、36億67百万円(前年同期比11億31百万円支出増)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益28億51百万円の計上と、売上債権・たな卸資産・仕入債務の減少によるネット資金の増加13億8百万円、法人税等の支払9億39百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動に使用した資金は、5億45百万円(前年同期比2億89百万円支出増)となりました。これは主に、非連結子会社株式の取得による支出2億41百万円を含む投資有価証券の売買によるネット支出4億71百万円、有形固定資産の取得による支出58百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動に使用した資金は、13億58百万円(前年同期比13億14百万円支出増)となりました。これは主に、短期借入金の減少7億50百万円、配当金の支払6億7百万円によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	56,550,000
計	56,550,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	22,824,977	22,824,977	東京証券取引所 市場第一部	株主としての権利内容に制限 のない、標準となる株式 単元株式数 100株
計	22,824,977	22,824,977		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

(ライツプランの内容)

該当事項はありません。

(その他の新株予約権等の状況)

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		22,824,977		10,334		7,355

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
三菱電機株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7-3	7,755	35.70
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 620065 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	180 MAIDEN LANE, NEW YORK, NEW YORK 10038 U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1 品川イン ターシティA棟)	797	3.67
日本スタートラスト信託銀行株式会 社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	734	3.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	472	2.17
シチズン時計株式会社	東京都西東京市田無町6丁目1-12	414	1.91
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・ エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300, BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿6丁目27-30)	396	1.82
菱電商事従業員持株会	東京都豊島区東池袋3丁目15-15	384	1.76
野村信託銀行株式会社(投信口)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	331	1.52
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2-1	326	1.50
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	292	1.34
計		11,906	54.82

- (注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 上記の他、当社所有の自己株式が1,105千株あります。
3. 2019年3月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、野村アセットマネジ
メント株式会社が2019年3月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として
2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりま
せん。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
野村アセットマネジメント 株式会社	東京都中央区日本橋一丁目12-1	1,601	7.01

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,105,400		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式 単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,672,500	216,725	同上
単元未満株式	普通株式 47,077		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	22,824,977		
総株主の議決権		216,725	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式57株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 菱電商事株式会社	東京都豊島区東池袋三丁目15-15	1,105,400		1,105,400	4.84
計		1,105,400		1,105,400	4.84

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,117	17,750
受取手形及び売掛金	2 57,688	52,090
電子記録債権	2 16,013	15,383
有価証券	44	1,000
商品及び製品	23,784	21,072
その他	3,140	2,711
貸倒引当金	35	25
流動資産合計	117,753	109,982
固定資産		
有形固定資産	4,580	4,551
無形固定資産	673	633
投資その他の資産		
その他	10,150	10,474
貸倒引当金	427	429
投資その他の資産合計	9,722	10,045
固定資産合計	14,976	15,230
資産合計	132,729	125,212
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 44,031	38,469
電子記録債務	2 10,842	8,916
短期借入金	1,358	533
未払法人税等	1,035	998
その他	3,948	3,686
流動負債合計	61,216	52,604
固定負債		
退職給付に係る負債	4,667	4,533
その他	1,129	1,113
固定負債合計	5,797	5,646
負債合計	67,013	58,250
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,334	10,334
資本剰余金	7,405	7,419
利益剰余金	47,900	49,231
自己株式	846	831
株主資本合計	64,793	66,152
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,650	1,587
為替換算調整勘定	405	211
退職給付に係る調整累計額	1,254	1,131
その他の包括利益累計額合計	800	667
新株予約権	121	142
純資産合計	65,716	66,962
負債純資産合計	132,729	125,212

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	117,939	115,233
売上原価	105,768	102,496
売上総利益	12,170	12,737
販売費及び一般管理費	1 9,805	1 9,954
営業利益	2,364	2,783
営業外収益		
受取利息	31	30
受取配当金	67	68
持分法による投資利益	20	27
その他	91	62
営業外収益合計	211	188
営業外費用		
支払利息	15	19
売上割引	26	23
為替差損	155	63
売上債権売却損	19	10
その他	18	10
営業外費用合計	236	127
経常利益	2,340	2,845
特別利益		
投資有価証券売却益	8	6
特別利益合計	8	6
税金等調整前四半期純利益	2,348	2,851
法人税等	737	913
四半期純利益	1,610	1,938
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,610	1,938

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	1,610	1,938
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	80	63
為替換算調整勘定	261	193
退職給付に係る調整額	111	122
その他の包括利益合計	68	133
四半期包括利益	1,542	1,804
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,542	1,804
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,348	2,851
減価償却費	237	263
貸倒引当金の増減額(は減少)	37	7
受取利息及び受取配当金	99	98
支払利息	15	19
持分法による投資損益(は益)	20	27
売上債権の増減額(は増加)	6,189	6,033
たな卸資産の増減額(は増加)	1,530	2,597
仕入債務の増減額(は減少)	2,709	7,321
その他	1,547	177
小計	5,942	4,486
利息及び配当金の受取額	103	139
利息の支払額	15	19
法人税等の支払額	1,230	939
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,799	3,667
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	101	100
有形固定資産の取得による支出	72	58
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	67	49
投資有価証券の取得による支出	253	493
投資有価証券の売却による収入	19	21
その他	16	65
投資活動によるキャッシュ・フロー	255	545
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	520	750
自己株式の純増減額(は増加)	0	0
配当金の支払額	564	607
財務活動によるキャッシュ・フロー	44	1,358
現金及び現金同等物に係る換算差額	214	130
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,285	1,633
現金及び現金同等物の期首残高	14,112	17,107
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 18,398	1 18,741

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
従業員持家融資等に対する保証	54百万円	従業員持家融資等に対する保証	42百万円
代理取引に対する保証 (取引先：(株)ナカノフード建設外計39社)	209	代理取引に対する保証 (取引先：新日本建設(株)外計18社)	112
計	264	計	154

2 期末日満期手形等の会計処理

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	765百万円		百万円
電子記録債権	279		
支払手形	1,278		
電子記録債務	1,774		

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
運賃諸掛	1,186百万円	1,237百万円
給与諸手当	3,183	3,221
賞与	1,245	1,234
退職給付費用	397	384
福利厚生費	917	911
賃借料	724	707
減価償却費	199	227

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	17,908 百万円	17,750 百万円
有価証券勘定に含まれる現金同等物	500	1,000
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	9	9
現金及び現金同等物	18,398	18,741

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月15日 取締役会	普通株式	564	26	2018年3月31日	2018年6月7日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年10月31日 取締役会	普通株式	607	28	2018年9月30日	2018年12月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月15日 取締役会	普通株式	607	28	2019年3月31日	2019年6月6日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月31日 取締役会	普通株式	608	28	2019年9月30日	2019年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	F A システム	冷熱 システム	I C T施設 システム	エレクト ロニクス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	22,590	13,351	3,130	78,867	117,939		117,939
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0				0	0	
計	22,590	13,351	3,130	78,867	117,939	0	117,939
セグメント利益又は損失() (営業利益又は営業損失)	912	496	68	1,094	2,435	70	2,364

(注) セグメント利益又は損失の調整額 70百万円には、各報告セグメントに配賦されていない全社費用 70百万円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない新規事業開発費用であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	F A システム	冷熱 システム	I C T施設 システム	エレクト ロニクス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	21,027	16,431	5,238	72,536	115,233		115,233
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0				0	0	
計	21,027	16,431	5,238	72,536	115,233	0	115,233
セグメント利益(営業利益)	594	872	289	1,097	2,853	69	2,783

(注) セグメント利益の調整額 69百万円には、各報告セグメントに配賦されていない全社費用 69百万円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない新規事業開発費用であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比べて著しい変動が認められないか、四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	74円25銭	89円28銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,610	1,938
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,610	1,938
普通株式の期中平均株式数(千株)	21,697	21,709
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	73円97銭	88円86銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	80	103
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動のあったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2019年10月31日、会社法第370条(取締役会の決議に替わる書面決議)に基づき、次のとおり第80期の中間の剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	608百万円
1株当たりの金額	28円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年12月6日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記録された株主又は登録株式質権者に対し支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

菱電商事株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池内 基明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 林 美岐 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている菱電商事株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、菱電商事株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。